

公益財団法人全日本私立幼稚園幼児教育研究機構における
幼稚園教諭等（民間）に関するキャリアアップ研修について

目次

1. はじめに	3
2. 組織概要	3
3. 設立目的	5
4. 事業の内容	5
5. 組織図	5
6. 都道府県の研修組織	6
7. 本財団が実施している研修（キャリアアップ研修対応）	7
8. キャリアアップ研修 9分野（文科省）からの俯瞰図（研修ハンドブック）の整理 ..	8
9. 研修ハンドブックにおける研修履歴証明	10
10. 都道府県私立幼稚園団体事務局	11
参考資料 保育者としての資質向上研修俯瞰図	12
参考資料 処遇改善等加算Ⅱの研修要件について	16
参考資料 処遇改善等加算Ⅱに係る研修スキーム（幼稚園職員向け）	17
参考資料 保育士等キャリアアップ研修の実施について	19
参考資料 認定こども園に係る処遇改善Ⅱの研修の取扱いについて	21

1. はじめに

公益財団法人全日本私立幼稚園幼児教育研究機構（以下、本財団）は、子ども・子育て支援新制度（以下、新制度）におけるキャリアアップ研修の指定研修団体として文部科学省より認定されている組織である。

本財団は、各都道府県にある私立幼稚園（学校教育法 1 条校）団体が中心となって実施している教育研修や研究を一体化、組織化した公益法人として発足した。

その業務として、都道府県の私立幼稚園団体に実施されている研修を整理し「保育者としての資質向上研修俯瞰図(以下、研修俯瞰図)」(2006 年)を作成するとともに、これに連動した「研修ハンドブック」(2008 年)を発行した。「研修俯瞰図」は、幼稚園教諭として初任から主幹・園長に至るまでの研修構築の道標となっており、研修企画や設計において利用されている。また、教諭個人においても「研修ハンドブック」の利用をとおして、分野ごとの講習受講、園内研修、実践発表等の研修履歴を個人においても把握できる仕組みを構築している。

2015 年には新制度に先駆けて、乳児から小学生への接続までの年齢発達や、保育の計画・実践・評価、保護者との連携、家庭の支援、組織マネジメントに至るまで、幅広い研修を網羅できるようにした。また「研修ハンドブック」も改訂を重ね、現時点で研修履歴情報の全国での共有と客観性を確保できるものとした。

この度、新制度において本財団内で実施している各研修が「キャリアアップ研修」に位置付いたことにより、「研修俯瞰図」を文部科学省が示すキャリアアップ研修 9 分野（厚生労働省が示すキャリアアップ研修で示す分野 1「乳児の保育」を含めて）に再整理して表にまとめて示すこととした。

「研修俯瞰図」が教諭にとっての資質向上に資すると共に、キャリアアップ研修としても有効に利用されることで、日本の幼児教育がさらによいものとなるように願う。

2. 組織概要

名称 公益財団法人 全日本私立幼稚園幼児教育研究機構

設立 平成 18 年 3 月 20 日

平成 25 年 4 月 1 日公益財団法人へ移行

法人住所 〒102-0073

東京都千代田区九段北 4-2-25 私学会館別館内

TEL 03-3237-1957 FAX 03-3263-7038

主務官庁 内閣府

規模

会員数 正会員 私立幼稚園・認定こども園 7,520 園（平成 30 年 12 月 5 日現在）

役員構成	理事長	1 名
	副理事長	2 名
	専務理事	1 名
	理事	20 名
	評議員	18 名
	監事	2 名

理事長（代表理事）

東 重満（北海道・美晴幼稚園／札幌国際大学人文学部）

理事一覧

理事			
理事長	東 重満	札幌国際大学人文学部心理学科特任教授	非常勤
副理事長	宮下友美恵	静 岡・学校法人静岡豊田学園静岡豊田幼稚園長	非常勤
副理事長	坂本 洋	岩 手・学校法人内丸学園理事長	非常勤
専務理事	田中 雅道	京 都・学校法人光明学園光明幼稚園長	非常勤
	秋田喜代美	東京大学大学院教育学研究科教授	非常勤
	安達 譲	大 阪・学校法人ひじり学園理事長	非常勤
	岩立 京子	東京学芸大学教育学部総合教育科学系教授	非常勤
	内山 昭	和歌山・学校法人内山学園理事長	非常勤
	大澤 力	東京家政大学子ども学部子ども支援学科教授	非常勤
	大林 晃	北海道・学校法人光輪学園理事長	非常勤
	岡 健	大妻女子大学家政学部児童学科教授	非常勤
	香川 敬	山 口・学校法人敬陽学園理事長	非常勤
	加藤 篤彦	東 京・学校法人武蔵野東学園理事	非常勤
	黒田 秀樹	福 岡・学校法人黒田学園理事長	非常勤
	小島 宮子	千 葉・学校法人野田小島学園岩木幼稚園長	非常勤
	志内 正一	徳 島・学校法人北島学園理事長	非常勤
	杉山 一夫	岐 阜・学校法人杉山第三学園理事長	非常勤
	鈴木 寛	東京大学公共政策大学院教授	非常勤
	鳥居 泰彦	元日本私立学校振興・共済事業団理事長	非常勤
	箕輪 潤子	武蔵野大学教育学部こども発達学科准教授	非常勤
監事			
	田中 圭子	東 京・成増幼稚園副園長	非常勤
	境田 正樹	弁護士	非常勤

事務局職員 常勤 4 名

基本財産 1 億円

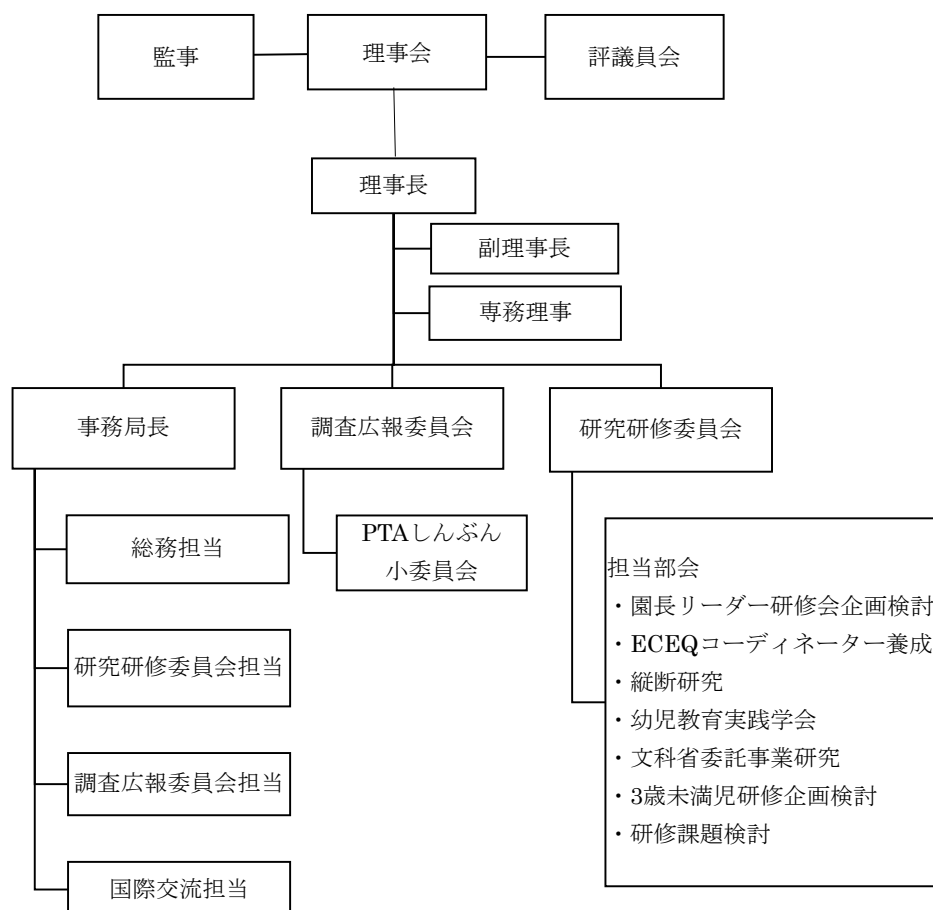
3. 設立目的

幼児期における子どもの豊かな育ちについて研究を深めるとともに幼児教育にかかわる者を支援し、もって幼児教育の発展並びに家庭・地域における教育力の向上に寄与すること。

4. 事業の内容

- ①幼児教育にかかわる者の資質向上
- ②幼児教育に関する調査及び研究
- ③家庭・地域における幼児期の教育力の向上への支援・普及
- ④幼児教育分野における国際交流等
- ⑤その他この法人の目的を達成するために必要な事業

5. 組織図



6. 都道府県の研修組織

全 国 11 ブロック

正会員数 7,520 園（平成 30 年 12 月 5 日現在）

都道府県名		正会員数	都道府県名		正会員数
北 海 道		454	近畿	滋 賀	17
東北	青 森	96		京 都	150
	岩 手	75		兵 庫	228
	宮 城	162		奈 良	43
	秋 田	64		和歌山	37
	山 形	82		大 阪	
	福 島	136	中国	鳥 取	27
関東	茨 城	187		島 根	9
	栃 木	184		岡 山	34
	群 馬	117		広 島	205
	埼 玉	522		山 口	124
	千 葉	345	四国	徳 島	10
	新 潟	105		香 川	36
	山 梨	57		愛 媛	93
東 京		792		高 知	28
神 奈 川		586	九州	福 岡	403
東海北陸	富 山	51		佐 賀	85
	石 川	60		長 崎	117
	福 井	31		熊 本	109
	長 野	101		大 分	63
	岐 阜	98		宮 崎	108
	静 岡	233		鹿児島	145
	愛 知	413		沖 縄	25
	三 重	61	合 計		7, 520

7. 本財団が実施している研修（キャリアアップ研修対応）

本財団の研修は大きく分けて3階層で実施している。

1. 本財団が直轄する研修

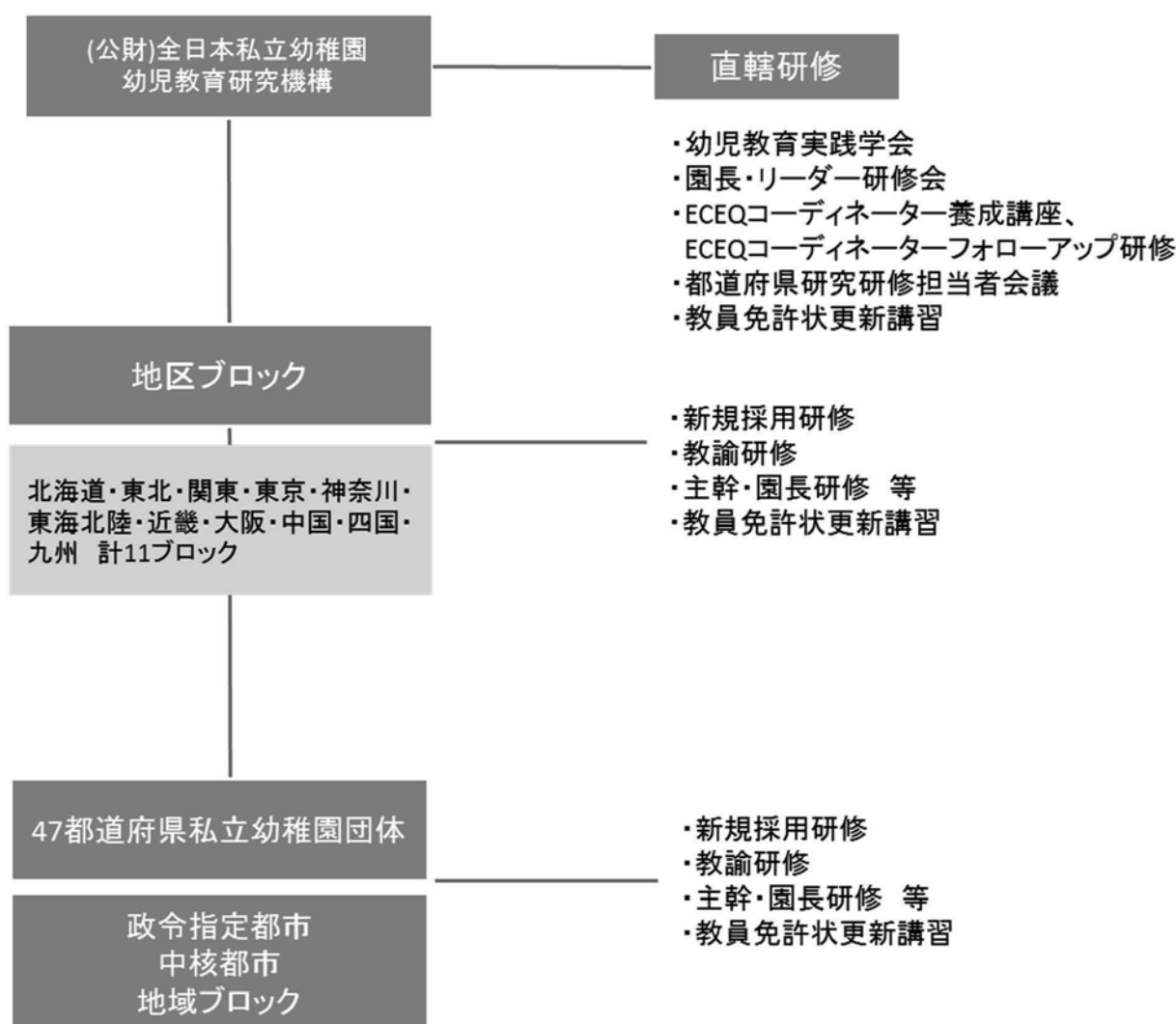
- ・幼児教育にかかわる先端的な情報提供、国の幼児教育の方向性を捉えて、地区ブロックや都道府県私立幼稚園団体のリーダーの育成、各幼稚園での園内研修や研究の発表と奨励、教員免許状更新講習

2. 地区ブロックにおける研修

- ・地区に包括される都道府県の教諭研修担当委員会同士の研修の平準化のための意見交換、研究大会の実施、教員免許状更新講習

3. 都道府県における研修

- ・域内の保育者の研修実施（新規採用教諭から中堅教諭、主幹・園長研修、教員免許状更新講習まで）
- ・政令指定都市、中核市においても都道府県と連携し、独自に研修を実施



8. キャリアアップ研修 9分野（文科省）からの俯瞰図（研修ハンドブック）の整理

分野 1. 教育・保育・理論

俯瞰図項目	俯瞰図番号と主な内容
教育要領の理解	E1 幼稚園教育要領と 幼保連携型認定こども園教育・保育要領の理解
人権	A4 人権：愛情深い保育 安心と安定 等
発達の理解	C2 発達理論 等
幼児教育の意義	D1 育ちの理解 自己肯定感の育成 等
保育計画の立案	E3 環境を通した教育計画（含 未満児の保育計画）等
実践の評価	E7 実践と評価 評価の発信と PDCA サイクル 等
	B2 ECEQ 公開保育
幼児理解	B2 幼児理解 スケールの利用 等
実践のための知識	E2 保育の形態 個と集団 教材研究 等
自園の保育の理解	B5 自園の保育実践の理解 等
自園の教育・保育課程	E1 自園の教育・保育課程 カリキュラムマネジメント
歴史と思想	C1 歴史と思想 等

分野 2. 保育実践

俯瞰図項目	俯瞰図番号と主な内容
保育内容	B3 豊かな遊び 等
環境の構成	E4 環境の構成 等
発達に応じた対応	E5 寄り添う保育 指導、援助、支援の実践 等
保育記録	D2 記録の作成から利用、活用まで 等
	E6 記録の視点の理解と工夫 等

分野 3. 特別支援

俯瞰図項目	俯瞰図番号と主な内容
障害のある子どもの理解	A1 障害のある子どもの理解 等
特別支援	D3 特別支援教育の理解と支援と実践 等
計画の立案	E3 教育支援計画と個別の指導計画の作成 等

分野 4. 食育・アレルギー

俯瞰図項目	俯瞰図番号と主な内容
食育・アレルギー	A2 食育・アレルギーの理解と対応 等

分野 5. 保健衛生・安全対策

俯瞰図項目	俯瞰図番号と主な内容
子どもの健康と安全	A2 伝染性疾患の理解と対応 衛生管理全般 等
	A3 救急対応、安全管理
自園の保育の理解	B5 災害対応、危機管理 等

分野 6. 保護者の支援、子育ての支援

俯瞰図項目	俯瞰図番号と主な内容
子どもの人権	A4 虐待の対応と防止 等
子育ての支援	F2 家庭との連携と支援 未就園児家庭支援 等
社会資源	F3 関係機関との連携と活用 等

分野 7. 小学校との接続

俯瞰図項目	俯瞰図番号と主な内容
実践のための知識	E2 学習指導要領の理解 小学校との連携 等
保護者・地域との連携	F1 小学校との交流 接続の理解と推進 等

分野 8. マネジメント

俯瞰図項目	俯瞰図番号と主な内容
子どもの健康と安全	A3 リスクマネジメント 防災計画の立案 等
職場における同僚性	B6 協働性の涵養 組織論 リーダーの育成 等
育ちの理解（事例研究）	D1 同僚性を活かしたチームでの学び 等
子どもの育ちと記録のとり方	D2 園内研の理解と実践 等
実践の評価	E7 同僚性の豊かな教員組織の醸成 等

分野 9. 制度や政策の動向

俯瞰図項目	俯瞰図番号と主な内容
子どもの理解	A1 子どもの権利条約・共生社会の理解と推進 等
日本の保育制度を知る	C3 新制度 等

分野 1. 乳児保育 保育士等（民間）に関するキャリアアップ（2・3号）関係

俯瞰図項目	俯瞰図番号と主な内容
子どもの人権	A1 乳児の理解 等
	A2 子どもの権利条約 等
発達理論	C2 乳児の発達 等
乳児の育ちの理解と支援と記録	D2 乳児の保育 等

※上記のように、厚生労働省のキャリアアップ研修分野 1 にも対応している。

※以上の整理は一例として示したものである。

9. 研修ハンドブックにおける研修履歴証明

本財団では、保育者が自分の研修履歴を蓄積し、必要にして十分な研修を計画的に受けることで資質向上を図ることができるよう研修ハンドブック及び研修スタンプを発行している。

研修スタンプについて

研修スタンプは、原則として全日本私立幼稚園連合会、(公財)全日本私立幼稚園幼児教育研究機構、都道府県私立幼稚園団体(都道府県私立幼稚園団体が認めた、市・地区の私立幼稚園団体を含む)等が主催する「保育者としての資質向上研修俯瞰図」に沿った研修会において発行される。研修スタンプには以下①～⑥の項目が記載されている。

- ①研修会名

②研修会開催日 ③スタンプ登録番号

④研修俯瞰図番号 ⑤研修時間数

⑥主催団体名

(公財) 全日私幼研究機構

- ・研修スタンプは、(公財)全日本私立幼稚園幼児教育研究機構指定のシールに印刷し、研修会で配布する。
- ・研修俯瞰図番号(A1, B2 など)は1講座につき1つ決める。
- ・研修時間は0.5時間、1時間と30分単位で記す。
- ・ECEQ公開保育の参加者については、保育参観・分科会・全体会を一連の研修と位置付け、一律6時間分(俯瞰図番号…B2)を発行する。
- ・教員免許状更新講習については、研修スタンプは発行しない。但し、教員免許状更新講習30時間を修了した証明として研修ハンドブックに、更新講習修了確認証明書のコピーを添付する。

参加者名簿及び研修スタンプ発行報告書

- ・主催団体は研修会の参加者名簿を必ず保管する。
- ・主催団体は年度末に参加者名簿と研修スタンプ発行報告書を本財団へExcelデータで送信する。

研修ハンドブックの使い方

- ・研修ハンドブックの所有者は、配布された研修スタンプのシールを該当する俯瞰図番号のページに貼って保管する。
- ・研修スタンプが発行される研修も、それ以外の研修(園内研修を含む)も受講した順に研修履歴一覧に記録する。
- ・講師やECEQコーディネーター、幼児教育アドバイザーを招いて行う園内研修については、講師名、研修時間等を研修履歴一覧に記録する。
- ・園長、施設長は、研修スタンプ及び研修履歴一覧に記録された内容を確認し、証明印を押す。

10. 都道府県私立幼稚園団体事務局

(公社)北海道私立幼稚園協会
青森県私立幼稚園連合会
(一社)岩手県私立幼稚園・認定こども園連合会
(一社)宮城県私立幼稚園連合会
秋田県私立幼稚園・認定こども園連合会
(公社)山形県私立幼稚園・認定こども園協会
(公社)福島県私立幼稚園・認定こども園連合会
(一社)茨城県私立幼稚園・認定こども園連合会
(一社)栃木県幼稚園連合会
(一社)群馬県私立幼稚園・認定こども園協会
(公社)全埼玉私立幼稚園連合会
(一社)全千葉県私立幼稚園連合会
(一社)新潟県私立幼稚園・認定こども園協会
山梨県私立幼稚園連合会
東京都私立幼稚園連合会
(公社)神奈川県私立幼稚園連合会
富山県私立幼稚園・認定こども園協会
(一社)石川県私立幼稚園協会
福井県私立幼稚園・認定こども園協会
(一社)長野県私立幼稚園・認定こども園協会
(一社)岐阜県私立幼稚園連合会
静岡県私立幼稚園協会
(公社)愛知県私立幼稚園連盟
(一社)三重県私立幼稚園・認定こども園協会
滋賀県私立幼稚園協会
(公社)京都府私立幼稚園連盟
(一社)兵庫県私立幼稚園協会
奈良県私立幼稚園連合会
(一社)和歌山県私立幼稚園協会
(一社)大阪府私立幼稚園連盟
鳥取県私立幼稚園・認定こども園協会
(一社)島根県私立幼稚園連合会
岡山県私立幼稚園連盟
(公財)広島県私立幼稚園連盟
(公財)山口県私立幼稚園協会
徳島県私立幼稚園・認定こども園協会
香川県私立幼稚園連盟
(一財)愛媛県私立幼稚園協会
高知県私立幼稚園連合会
(一社)福岡県私立幼稚園振興協会
(一社)佐賀県私立幼稚園・認定こども園連合会
長崎県私立幼稚園連合会
(一社)熊本県私立幼稚園連合会
大分県私立幼稚園連合会
宮崎県幼稚園連合会
(一社)鹿児島県私立幼稚園協会
沖縄県私立幼稚園連合会

保育者としての資質向上研修俯瞰図

(公財)全日本私立幼稚園幼児教育研究機構

		Hop	Step	Jump
A愛されて育つ子ども	子どもの人権	A1-I 子どもの理解 (多様な子どもの受容) ○家庭環境、人種、職業等の違いの認識 ○差別的な言葉・表現の理解 (人権を守る保育) ○子どもの人権と権利の理解 ○性差/個体差の認識と共有	A1-II 子どもの理解 (多様な子どもの受容) ○家庭環境、人種、職業等の違いの理解 (人権を守る保育) ○子どもの人権と権利の共有 ○子どもの権利条約 (生きている権利、育つ権利、守られる権利)の理解 ○ハラスメント、ジェンダーの認識 (支援を要する保育) ○インクルーシブ・特別支援教育の共有	A1-III 子どもの理解 (多様な子どもの受容) ○家庭環境、人種、職業等の違いの共有 (人権を守る保育) ○人権教育論の理解と共有 ○子どもの人権と権利の擁護 ○少年法/児童福祉法/発達障害者支援法/家族法/児童憲章等の理解と共有 ○子どもの権利条約(生きている権利、育つ権利、守られる権利、参加する権利)の理解と共有 ○ハラスメント・ジェンダー・マイノリティ・共生社会・合理的配慮の共有 (支援を要する保育) ○インクルーシブ・特別支援教育の体制構築
		A2-I 健康的な園生活 ○視診・触診 ○家庭との連絡(既往症と特病、アレルギーの把握・対応・配慮) ○心理面のケア/アタッチメント ○身体測定 健康記録 ○健康衛生指導 ○生活習慣指導 ○健康診断 ○与薬(薬機法) ○就寝管理/呼吸確認(定時・SIDS対応) ○救急法(ケガの対応・心肺蘇生法・AED等) ○エビソード等への対応	A2-II 健康的な園生活 ○食育(栄養管理) ○食品衛生 ○園医等との連携 ○保護者への健康(保健だよりも含む)・栄養指導と支援 ○家庭への生活習慣指導と支援 ○与薬(薬機法) ○エビソード等への対応 ○園医・園歯科医・医療機関との連携 ○愛着(アタッチメント)理論	A2-III 健康的な園生活 ○食環境 ○栄養指導と支援(家庭向け) ○伝染病への対応 ○施設の衛生管理 ○薬品管理 ○子どもの生活環境に対する分析と提言 ○与薬(薬機法)
		A3-I 安全な園生活 ○救急法(ケガ、心肺蘇生法・AED、誤飲・誤食等) ○安全指導、安全管理 ○積極的なヒヤリハットの活用 ○自園の安全管理マニュアルの理解と確認 ○災害・危機管理マニュアル、危険予知・予防 (遊具・園庭環境・園外保育・有害動植物等) ○侵入者防衛/対応	A3-II 安全な園生活 ○小児保健(疾病含む)、校医との連携 ○災害管理、安全確認(遊具施設、園内環境) ○後輩への安全指導 ○リスクマネージメント ○危機管理マネージメント ー防災計画・訓練(マニュアル)の検証	A3-III 安全な園生活 ○健康管理 ○責任者論 ○リスクマネージメント ○危機管理マネージメント ー防災計画・訓練(マニュアル)の企画・立案・作成・実施 ○重大事故・事件の報告・公表
		A4-I 愛情深い保育 ○心の教育・保育、心・情動に向き合った保育 ○人間観・子ども観 ○愛されていると感じられる保育 ○安心・安全を感じられる保育 ○自己肯定感・自尊感情の醸成 ○虐待・DV防止	A4-II 愛情深い保育 ○心の教育・保育、心・情動に向き合った保育 ○人間観・子ども観 ○宗教保育(仏教保育、神社保育、キリスト教保育等) ○愛・感謝・希望を育む保育 ○愛着形成(家庭・地域社会と共有)	A4-III 愛情深い保育 ○愛・感謝・希望を育む保育 ○宗教性を基盤に置いた保育
	人間性豊かな保育者	B1-I 人間性を磨く (視野の拡大) ○感性を磨く(芸術に触れる) ○社会的活動(地域活動への参加など) ○ボランティア活動 ○積極的にリフレクシユする	B1-II 人間性を磨く (視野の拡大) ○異業種体験 ○他園実習研修 ○リフレクシユの重要性を理解する	B1-III 人間性を磨く (視野の拡大) ○海外研修 ○自らへの投資を意識づける ○リフレクシユのタイミンを理解し、提案する
子どもの心に寄り添い、共に生活し育ち合う		B2-I 子どもの理解 (育ちの理解) ○幼児期の発達理解 (子ども理解) ○多様な理解があることを知る (子どもを評価する様々な技能や客観化する手法(評価のスケール等)の研修) ○評価方法を知る (公開保育) ○自園で他の保育者の保育を見る ○他園の公開保育に参加し自園との違いを感じる (エビソードの記述) ○語り合いながら、育ちや学びを共有することを知る	B2-II 子どもの理解 (育ちの理解) ○乳児期と児童期の理解 (子ども理解) ○多様な理解をする (子どもを評価する様々な技能や客観化する手法(評価のスケール等)の研修) ○評価を使いこなす (公開保育) ○自園で自分の保育を見てもらい意見をもらう ○他園の公開保育に参加し自園の良さや課題を理解する (エビソードの記述) ○語り合ったり、記述したりすることを理解する	B2-III 子どもの理解 (育ちの理解) ○青年期(生涯)の理解/生涯発達心理の理解 (子ども理解) ○多様な理解を提案し、その人らしさを引き出す (子どもを評価する様々な技能や客観化する手法(評価のスケール等)の研修) ○評価方法を考案する (公開保育) ○自園で互いの保育を見合い、園全体で共有する ○自園の保育を他園に公開する ○他園の公開保育に参加し自園と他園をコーディネートする (エビソードの記述) ○エビソードからの多様な読み取りを提案する

B	子どもと共に育つ保育者	遊びの専門性	<p>B3-I 豊かな遊び (アウトドア体験) ○自然と触れ合い遊び方を知る (フレイバーク、遊び場研修) ○魅力的な遊び場を体験する (生き物と触れ合う(命と触れ合う)体験、自給自足体験) ○生き物と触れ合い、育て方を知る (自分の得意分野を持ち、保育に生かす) 絵画・造形・音楽・運動等の分野とそれ以外の分野 ○得意分野を知る</p>	<p>B3-II 豊かな遊び (アウトドア体験) ○遊びを工夫する (フレイバーク、遊び場研修) ○遊び場を創造する(園内) (生き物と触れ合う(命と触れ合う)体験、自給自足体験) ○生き物の知識などを増やす (自分の得意分野を持ち、保育に生かす) 絵画・造形・音楽・運動等の分野とそれ以外の分野 ○得意分野を磨く</p>	<p>B3-III 豊かな遊び (アウトドア体験) ○遊びを創りだし提案する (フレイバーク、遊び場研修) (生き物と触れ合う(命と触れ合う)体験、自給自足体験) ○生き物を生活に取り込む (自分の得意分野を持ち、保育に生かす) 絵画・造形・音楽・運動等の分野とそれ以外の分野 ○個の得意分野を園全体に生かす</p>
		社会人としての役割	<p>B4-I 社会人としての自覚 (社会人としての姿) ○社会人としてのモラル、ルール、マナーを知る ○自分の仕事を理解し、慣れる ○組織の一員としての自覚を持つ ○クラス担任の仕事を理解する</p>	<p>B4-II 社会人としての自覚 (社会人としての姿) ○積極的にルールやマナーを理解する ○組織の一員として期待される役割を意識する ○自分の仕事の目的・役割を認識する ○学年としての見通しを持つ</p>	<p>B4-III 社会人としての自覚 (社会人としての姿) ○リーダーとしてのモラル、ルール、マナーを知る ○保育者としてのあり方を具体的に自らが示す ○組織の活性化を図る ○仕事の目的・目標を明確化する ○仕事の効率化を図る</p>
		自園の保育の理解と実践	<p>B5-I 自園の保育の理解と実践 (自園理解(建字の精神・園としての持ち味)) ○自園の教育・保育理念を理解する ○自園の教育課程を理解する</p> <p>(日常の保育の点検) ○保育のねらいを理解し意識する ○園のルールを知り、理解する (行事) ○行事の意義を知る</p>	<p>B5-II 自園の保育の理解と実践 (自園理解(建字の精神・園としての持ち味)) ○自園の教育・保育理念の特長を理解する ○教育課程を編成する</p> <p>(日常の保育の点検) ○保育のねらいを点検し見直す ○園のルールを検証し見直す (行事) ○行事を点検・検証し見直す</p>	<p>B5-III 自園の保育の理解と実践 (自園理解(建字の精神・園としての持ち味)) ○自園の教育・保育理念の特長を継承し課題を改善する ○自園の教育・保育理念を編成し明文化する ○教育課程を見直し再編する ○自然環境・遊び場マップをつくる ○子育て講座を実践する (日常の保育の点検) ○意見を集約し再構成する ○保育の目的やルールの意義を評価し見直しを投げかける (行事) ○意見を集約・検証し再構成する</p>
		職場における同僚性	<p>B6-I 同僚性を高める (人間関係力) ○尊ね、相談する ○積極的にコミュニケーションを図る ○メンター(助言者)等に協力を求める ○ワークショップに参加する</p>	<p>B6-II 同僚性を磨く (人間関係力) ○指導、助言が相手の立場に立ててできる ○リーダーの役割を学ぶ ○メンターを指名する ○メンターの役割を担う</p>	<p>B6-III 同僚性を磨く (人間関係力) ○ワークショップを運営する ○次代のリーダーを育てる</p>
		保育の歴史や思想を知る	<p>C1-I 歴史と思想 ○現代社会における子どもの問題 ○現代の教育・保育施設の誕生と理念</p> <p>○ジョン・ロック、ルソー、ペスタロッチ、フレイベル、デューイ、エレンケイ、モンテッソーリ、ニール、シュタイナー、マラッティ など ○オーベルランの幼児保護所、オーエンの幼児学校、フレイベルのキンゼール市の自由学校、シュタイナー学校、レッジオエミヤ市の幼稚園 ○ヘッドスタート計画</p>	<p>C1-II 歴史と思想 ○社会変化と子どもの状況 ー保育思想の芽生え ○保育制度や乳幼児期保育施設の変遷</p>	<p>C1-III 歴史と思想 ○現代の保育制度と保育理念 ○多層化する保育ニーズ</p>
C	教育・保育理論	保育を支える発達 理論を知る	<p>C2-I 発達理論 (発達に即した保育) ○保育から見取る身体的・知的発達 ○保育を通して見る発達段階と保育課題</p> <p>(発達の基礎理論) ○幼児期の育ち 身体性の育ち、情動の育ち、言葉の育ち、知的な育ち、友達関係の育ち ○ピアジェ、ピゴウスキー、ワロン、エリクソン、ハーヴィン・ガースト、ボールビイ など ○発達のとらえ方、発達段階説、発達の最近接領域、発達課題、内言語</p>	<p>C2-II 発達理論 (発達に即した保育) ○応答的に環境にかかわることの意味 ○自我の発達と家族関係の心理 ー愛着の形成とボズビギリズム ○子どもの姿と発達理論上の相違の理解 (発達の基礎理論) ○乳児期から児童期の育ち 社会性の育ち、道徳性の育ち、認知機能の育ち、自我・性格の育ち</p>	<p>C2-III 発達理論 (発達に即した保育) ○応答的な人的環境とは ○保育者の心理 ○現代の社会環境での発達の課題</p> <p>(発達の基礎理論) ○生涯発達の視点 ○主要な発達論の理解と乳児期、幼児期、児童・青年期の連続性と その規定要因の理解</p>
		日本の保育制度を知 る	<p>C3-I 制度の理解 (保育の歴史) ○我が国の保育施策と保育施設 ー社会の変容と保育施策 ー子育て・保育に関する報道から見える考え方 ーベビーホテル等の保育環境</p> <p>(教育・保育制度) ○幼稚園・保育所、こども園、認可外保育施設の違い ○学校と児童福祉施設の違い ー家庭を補完し、発達を援助する ー幼児を保護し、家族を支援する</p>	<p>C3-II 制度の理解 (保育の歴史) ○保育制度の歴史と自園の設立の経緯</p> <p>(教育・保育制度) ○自園を取り巻く環境と保育制度の関係 ー労働環境・家庭環境と園園時間など ○少子化時代の乳幼児教育施設 ーエンゼルプラン・次世代育成支援法、子ども、子育て支援法などの 政策とその意味</p>	<p>C3-III 制度の理解 (保育の歴史) ○創生期の幼児教育施設とその思想的リーダー ○社会情勢の変化に伴う教育施設の変遷と多様化 ー幼稚園・保育所の成り立ち</p> <p>(教育・保育制度) ○保育制度の多様化が生む教育・保育観の違い ー幼稚園・保育所の歴史の経緯 ー児童中心主義と教師(大人)中心主義 ー経験主義的学力観と系統主義的学力観 ○平成元年の幼稚園教育要領改訂の意義 ○発達・保育履歴の継続など制度上の問題点 ○現代的課題と保育者・保育団体の役割</p>

		Hop	Step	Jump
D 子ども理解	子どもの育ちと記録のとおり方(育ちの理解)	D1-I 育ちの理解(事例研究) ○胎児から誕生までの育ち ○誕生から就学までの育ち ○身近な大人との関係の中での育ち ー基本的信頼感、愛着形成、自我の芽生え、自己主張 ○自己肯定感と自己有能感の獲得 ○子ども同士の関係の中で ー自己発揮、自己抑制、自律の獲得 ー一人遊び・集団遊び、ごっこ遊び ー母子分離、けんか、協同する経験	D1-II 育ちの理解(事例研究) ○認知の発達(育ちの節目の理解) ○協同的学びの展開 ○縦割り保育、異年齢交流を実践する ○目に見えない内面や心情的理解(非認知的能力の育ち) ○同僚性を基盤としたチームとしての学び合い	D1-III 育ちの理解(事例研究) ○園の教育・保育理論の確立(リーダーとして) 子ども理解に始まる保育・教育 乳児期の保育と幼児期の教育の一体化(インテグレーション) ○学童期の発達の姿(スタートアップ・キュラムの理解) ○人生の基礎を培う乳幼児期 コミュニケーション力・社会人基礎力・批判的思考力
	子どもの育ちと記録のとおり方(育ちの記録)	D2-I 育ちの記録(取る) ○個人記録 ○保育日誌 ○様々な記録(エピソード、環境図、写真、動画)	D2-II 育ちの記録(利用する) ○日誌からエピソードへ ○保護者との育ちの共有 エピソード、ドキュメンテーション、ポートフォリオ ※写真等の活用 ○肯定的視点による記録 ○集団の記録 ○個別記録の引き継ぎ	D2-III 育ちの記録(生かす) ○エビデンスに基づく育ちの検証と記録ができる ○園内研修(ケース会議)を企画する ー子ども理解から始まる教育・保育実践 ○園内研修の実施とファシリテーション ○保育へのフィードバック ○研修の目的を達成する
	特別支援教育	D3-I 特別支援教育の理解 ○特別支援とインクルージョン教育 ○様々な障がいの基礎知識(自閉症スペクトラム、合理的配慮等) ○特別支援教育の実践基礎	D3-II 特別支援教育の保育実践 ○園内の連携、家庭との連携(家庭支援) ○個別の指導計画	D3-III 特別支援教育の環境整備 ○ケースカンファレンス ○基礎的環境整備 ○個別の教育支援計画 ○小学校、専門機関との連携
	幼稚園教育要領、認定こども園教育・保育要領と各園の教育・保育課程	E1-I 自園の教育・保育課程 ○教育・保育課程が目指す理念の理解 ○教育・保育課程を生かした指導計画の作成	E1-II 自園の教育・保育課程 ○教育・保育課程が目指す理念の理解と共有 ○教育・保育課程を生かした指導計画の検証と、保育現場における課題の明確化 ○教育要領、教育・保育要領などと自園の教育・保育課程との関連性の理解	E1-III 自園の教育・保育課程 ○自園の教育理念の明確化 ○教育要領、教育・保育要領などと自園の教育・保育課程との整合性の検証 ○誕生から小学校以降までの育ちを見通した教育・保育課程の編成、解説、共有、見直し ○幼児教育の社会的意義を社会に発信する方策とエビデンス
E 保育実践	実践の基礎となる知識など	E2-I 実践のための知識 (様々な保育形態) ○異年齢混合保育、チーム保育、預かり保育などの理解 (個と集団) ○個と集団の関係性の理解 (年齢に応じたかわり) ○年齢や発達に応じた保育内容やかわりを理解する ○年齢や発達を考慮した学校運営の基礎知識 (遊びの知識と理解) ○伝承遊び、自然とかかわる遊び、新しい遊び (教材の知識と理解、作成) ○各教材の使い方の理解 ○教材の選択、作成 (発達や学びの連続性の保障) ○保育所保育指針等や小学校学習指導要領の基本的理解	E2-II 実践のための知識 (様々な保育形態) ○異年齢混合保育、チーム保育、預かり保育などへの柔軟な対応 (個と集団) ○個と集団の関係を生かした学校運営の実践 (年齢に応じたかわり) ○年齢や発達に応じた保育内容やかわりの検証 ○年齢や発達を考慮した学校運営の検証 (遊びの知識と理解) ○遊びの意味と育ちへのつながり ○自然発生的な遊びの重要性 (教材の知識と理解、作成) ○各教材と育ちへのつながりの理解 ○教材の選択、作成、改良 (発達や学びの連続性の保障) ○乳児期の保育や小学校以降の学習へのつながりを意識した保育	E2-III 実践のための知識 (様々な保育形態) ○自園の教育理念に基づく保育形態の選択 ○保育形態への理解を促す解説、価値観の共有 (個と集団) ○個と集団の関係を生かした園の体制づくり (年齢に応じたかわり) ○年齢や発達に応じた保育内容やかわりを、生涯の育ちという観点から検証 (遊びの知識と理解) ○遊びの意味と育ちへのつながりの解説と共有 (教材の知識と理解、作成) ○各教材と育ちへのつながりの解説と共有 ○教材の開発 (発達や学びの連続性の保障) ○乳児期の家庭支援や小学校以降の学習との連続性を意識した基礎的環境整備
	指導計画から保育の立案へ	E3-I 計画の立案 (保育の理解と計画) ○心情、意欲、態度の育ちの基本 ○環境を通しての保育の基本 ○遊びを通しての育ちと学びの基本 ○協同的な遊びと学びの基本 (保育案等の作成) ○主体性が生きる保育案の工夫 ○行事の意義の理解 ○特別支援教育における個別指導の理解、計画の作成 ○0,1,2歳児における個別指導の理解、計画の作成	E3-II 計画の立案 (保育の理解と計画) ○心情、意欲、態度の育ちを意識した実践 ○環境を通しての保育の実践 ○遊びを通しての育ちと学びの実践 ○協同的な遊びと学びの実践 ○遊びや活動を充実させる時間設定の工夫 (保育案等の作成) ○実践に生きる保育案のあり方と再構築の考察 ○行事の立案 ○特別支援教育を充実させる個別指導計画のあり方 ○0,1,2歳児保育を充実させる個別指導計画のあり方	E3-III 計画の立案 (保育の理解と計画) ○遊びや活動を充実させる時間的な環境づくり ○現場で生じる指導計画や保育案のフォーマット作成 ○指導計画の存在と大切さを社会に発信する方策 (保育案等の作成) ○保育案等に基づく保育者の指導 ○行事の立案と再構築 ○特別支援教育を充実させる個別指導計画の作成指導 ○0,1,2歳児保育を充実させる個別指導計画の作成指導
	環境の構成	E4-I 環境の構成 ○環境構成の重要さの理解 ○自然環境、飼育と栽培、人工的な教材等の基本的知識と理解 ○魅力的な環境づくりのための技術の習得 ○環境の要としての保育者のあり方 ○子どもと共に環境をつくり出すことの意義 ○コーナー保育などの理解	E4-II 環境の構成 ○環境構成と再構成の重要さの理解 ○自然環境、飼育と栽培、人工的な教材等の構成と応用 ○魅力的な環境づくりのための技術の応用 ○環境の要としての保育者のあり方 ○子どもと共に環境をつくり出す方策 ○落ち着ける環境の理解と創出 ○地域資源(自然、文化、人材、伝承行事等)の発見と活用法の創出	E4-III 環境の構成 ○環境の構成と再構成を進めやすい基盤づくり ○環境と保育者、子どもの関係の明確化 ○自然環境、飼育と栽培、人工的な教材等の精査、導入 ○地域資源(自然、文化、人材、伝承行事等)の活用につながる基盤づくり ○環境づくりの技術指導

<div> <div>保育の実践</div> <div>観察と記録</div> <div>保育の振り返りと評価</div> <div>保護者・地域との連携</div> </div>	E5-I 指導、援助、見守り等の実践 ○子どもに寄り添う共感的な対応 ○子どもに対して使う言葉の精査と非言語の表現（表情、まなざし、身体表現等）の理解 ○具体的な保育技術、実践内容の習得 ○手段としての保育の理解 遊びの伝承と創造の実践 子どもの主体性の尊重 子ども一人一人の思いの理解 個と集団の関係を意識した実践	E5-II 指導、援助、見守り等の実践 ○指導、援助、見守り等の適切な使い分け ○子どもに対して使う言葉や非言語の表現の適切な使い分け ○質の高い保育技術、実践内容の精査、継承 ○手段としての保育の継承 子どもの育ちに生きた遊びの伝承と創造 子どもの主体性を伸ばす実践のあり方 子ども一人一人への適切な対応 一人一人を生かす集団保育のあり方 ○園独自の文化の理解と継承	E5-III 指導、援助、見守り等の実践 ○安心して実践を進められる基礎づくり ○保育技術や実践内容の取り入れや検証をする仕組みづくり ○保育技術や遊びが継承していく仕組みづくり ○園独自の文化の創造と精査、継承していくための方策と風土づくり
	E6-I 記録 〈観察の視点〉 ○様々な観察の視点の理解と思考 〈記録方法〉 ○様々な記録方法と集団の記録 個人の記録と集団の記録 エピソード記録、記述など 〈記録の整理と活用〉 ○記録の整理と思考	E6-II 記録 〈観察の視点〉 ○観察の視点の適切な使い分け 〈記録方法〉 ○よりよい記録方法の工夫 〈記録の整理と活用〉 ○記録の整理による共有と活用	E6-III 記録 〈観察の視点〉 ○観察の視点についての指導 〈記録方法〉 ○よりよい記録方法の作成、見直し 〈記録の整理と活用〉 ○記録の共有と活用の仕組みづくり
	E7-I 実践の評価 ○評価の意義の理解 自分の実践を客観的に振り返り、課題を発見する手段として ○保育者間のカンファレンスの意義 ○計画、実践への反映の理解と思考	E7-II 実践の評価 ○評価方法の精査と園内での評価結果の共有 ○保育者間のカンファレンスのあり方 ○園の課題の発見と園内での共有 ○計画、実践への適切な反映	E7-III 実践の評価 ○評価結果に基づき社会への発信 ○情報共有ができる同僚性の豊かな保育者集団の醸成 ○社会の課題の発見と共有 ○計画、実践に反映できる仕組みづくり
	F1-I 連携の視点 〈保・幼・小の連携を学ぶ〉 ○幼児と児童の交流を知る ○保・幼・小の教職員同士の交流を知る ○小学校のスタートカリキュラムを学ぶ 〈保護者との連携ができる〉 ○保護者との連携の方法 連絡帳の活用方法 ○コミュニケーションの方法を学ぶ ○保護者との懇談会等のあり方を学ぶ 〈教育相談の方法と実践を知る〉 ○教育相談の基本的姿勢 ○個別面談の基本的技法 ○カウンセリングマインドを活用した教育相談の理解 〈情報発信（メディア）の活用方法を知る〉 ○便利さと危険性の理解	F1-II 連携の視点 〈保・幼・小の連携を理解する〉 ○幼児と児童の交流の企画 ○保・幼・小の教職員同士の交流を企画 ○接続を見通したカリキュラムを理解する 〈保護者との連携に努める〉 ○保護者啓発のための連絡帳 ○コミュニケーション能力を高める ○保護者との懇談会等の運営を学ぶ ○活動情報誌の作成と活用方法 〈教育相談の方法と実践を学ぶ〉 ○教育相談、個別面談の実践 ○カウンセリングマインドを活用した教育相談の理解と実践 〈メディアの活用方法を考える〉 ○Webを活用した情報の発信とは ○便利さと危険性の理解	F1-III 連携の視点 〈保・幼・小の連携への理解と実践〉 ○接続を見通した交流の企画・運営 ○保・幼・小の発達や学びの連続性を踏まえたカリキュラムの編成 〈保護者との連携を深める〉 ○保護者との懇談会等の運営を企画する ○活動情報誌の作成と活用方法 ○保護者同士の交流の場の提供 ○教育方針、内容理解のための啓発手法 〈教育相談の方法と実践を工夫する〉 ○教育相談の生かし方 ○個別面談の生かし方 ○カウンセリングマインドを活用した教育相談の理解と実践 〈メディアの活用方法を発信する〉 ○Webを活用した情報の発信と活用 ○情報倫理の周知
<div> <div>子育ての支援</div> <div>社会資源</div> </div>	F2-I 子育て家庭の支援 〈家庭を支援する必要性の理解〉 ○預かり保育の取り組み 一教育時間終了後の預かり保育の理解 一家庭との緊密な連携を図る 一保護者の要請や地域の実態を知る ○子どもと家庭の変容 一子どもと家庭の変容を理解する 一子育ての変容を理解する 一家庭/家族の変容を知る 一子どもの変容と家族の変容の関連を理解する ○子どものよさを家庭と共有する ○子どもに寄り添う対応 〈特別なニーズを持つ家庭を知る〉 ○療育環境の理解 ○不適切なかわり、虐待への理解と早期発見 ○DV（ドメスティック・バイオレンス）の理解 ○ひとり親家庭への支援 ○子どもの貧困について学ぶ ○子どもの貧困について学ぶ ○自分の育ち（就業体験）を振り返る	F2-II 子育て家庭の支援 〈支援が必要ない家庭へのアセスメント〉 ○預かり保育の保育内容に関する計画・実践 一幼稚園教育の基本を踏まえた保育内容の計画・実践 一幼児の生活が豊かなものとなる環境を考える ○親の養育観の理解 ○家庭を取り巻く社会環境の理解 ○子育て意識の変化の理解 ○子育ての負担感や不安感への理解 ○子育てと親育ちへの支援のあり方を学ぶ ○未就園児の親子登園の現状を知る	F2-III 子育て家庭の支援 〈アセスメントを活用した支援を検討〉 ○預かり保育の運営並びに支援 一園内体制の整備 一関係機関との連携、協力 一地域の幼児期の教育のセンターとしての役割 ○子育てと親育ちへの支援 ○0～2歳児の家庭支援のあり方 ○未就園児の親子登園の運営 〈特別なニーズを持つ家庭への支援〉 ○専門機関との連携を深める ○虐待への理解と対応 ○DVの理解と対応 ○ひとり親家庭への対応と支援 ○子どもの貧困への支援
	F3-I 社会資源の理解 〈身近な社会資源を知る〉 ○病院、保健所、保健センター、福祉事務所、図書館、子ども館など 〈専門機関との交流の意義を知る〉 ○保健師との連携を考える ○児童相談所、療育センター、保健センターの役割を知る	F3-II 社会資源を知る 〈専門機関との交流を深める〉 ○児童相談所、療育センター、保健センターとの交流 ○特別支援教育コーディネーターとの交流について ○民生・児童委員、主任児童委員の役割 ○臨床心理士（カウンセラー）との意見交換 ○ファミリーサポートセンターの役割と利用方法 〈コミュニティ・スクールの実践を学ぶ〉 ○PTA活動・保護者会を運営する ○地域住民の思いやニーズを共有する ○PTA活動・保護者会を運営する ○地域住民の思いやニーズを共有する ○先進的な運営の実践を学ぶ ○園や支援組織・団体との連絡調整を学ぶ	F3-III 社会資源を知る 〈専門機関との連携〉 ○児童相談所、療育センター、保健センターとの連携について ○特別支援教育コーディネーターの役割と連携 ○民生・児童委員、主任児童委員との連携 ○子育てセンターの支援を行う ○子育て支援センターの役割を担う 〈コミュニティ・スクールの運営〉 ○PTA活動・保護者会を運営する ○地域住民の思いやニーズを共有する ○PTA活動・保護者会を運営する ○地域住民の思いやニーズを共有する ○支援者や園の課題や目指す幼児像の共有を図る ○活動計画を作成し実践に取り組む

F 子どもが育つ家庭や地域

事 務 連 絡
平成 30 年 12 月 5 日

各都道府県
子ども・子育て支援新制度担当部局 御中

内閣府子ども・子育て本部参事官（子ども・子育て支援担当）
内閣府子ども・子育て本部参事官（認定こども園担当）
文部科学省初等中等教育局幼児教育課
厚生労働省子ども家庭局保育課

処遇改善等加算Ⅱの研修要件について

平素より子ども・子育て支援施策の推進に御尽力いただき、厚く御礼申し上げます。

さて、子ども・子育て支援新制度の施設型給付費等（私立保育所に対する委託費及び地域型保育給付を含む。）に係る処遇改善等加算Ⅱ（以下「加算Ⅱ」という。）の取得要件となる研修（2022年度を目途に必須化を目指す。）については、これまで各施設・事業所類型ごとに実施方針を順次お示しし、各実施方針をまとめて周知してこなかったことから、必ずしも全ての自治体において正確な周知が進んでいない状況にあります。そのため、改めて各施設・事業所類型ごとの実施方針の内容について、まとめて別紙のとおり送付いたしますので、正式な加算要件の通知を発出するまでの間、各都道府県におかれては、これらを踏まえた運用をお願いいたします。

なお、幼稚園に係る実施方針については、その後の検討により、時間数や研修分野の取扱いについて、以前お示ししたのから変更を行っておりますので、改めて御確認の上、別紙1に基づく運用をお願いいたします。

また、特に認定こども園が加算Ⅱを取得する場合には、幼稚園職員向けの研修スキーム（別紙1）と「保育士等キャリアアップ研修」（別紙2）のいずれも対象とするものであり、認定こども園に係る実施方針についても、この取扱いをより明確にするとともに、幼稚園の変更と整合させるため、以前お示ししたのから変更を行っております（別紙3）。

各都道府県におかれては、各認定こども園の職員が現在及び将来にわたる職務内容に応じた関連する内容を幅広く受講することができるよう、改めて適切な運用をお願いいたします。

なお、別紙の方針を包括した正式な加算要件を定める通知については、本年度内のなるべく早い時期に発出する予定ですので、御留意いただきますようお願いいたします。

各都道府県におかれては、上記内容をご了知の上、貴管内の市区町村、事業者等への周知をお願いいたします。

処遇改善等加算Ⅱに係る研修スキーム（幼稚園職員向け）

1. 実施主体

- ① 都道府県・市区町村
- ② 幼稚園関係団体
- ③ 大学等（大学、指定教員養成機関、その他免許状更新講習・免許法認定講習開設者等）
- ④ その他都道府県が適当と認める者

（※）園内で実施する研修についても、学識経験者、幼稚園担当指導主事や地方公共団体が委嘱する幼児教育アドバイザーなど、幼児教育に関する専門的知識又は技能を有する園外の者の訪問支援を活用して実施する場合など一定の要件の下、認める予定

2. 研修内容

○ 幼稚園職員に対する研修は、これまでも様々な主体により多種多様な研修が提供されてきた実績があることから、原則としては1. に示した実施主体が実施する研修であって、幼稚園教育要領を踏まえて教育の質を高めるための知識・技能の向上を目的としたものを幅広く認める予定であり、都道府県が個別の研修についてあらかじめ認定等を行うことは不要。

○ 1. に示した実施主体が実施する研修が幅広く対象となることから、例えば、下記のような各種研修も対象となる予定（※）。

- ・ 経験年数に着目した研修（例：3年目研修、5年目研修、10年目研修など）
- ・ 園内での役割に着目した研修（例：主任研修、リーダー教員研修など）
- ・ 広く一般教員を対象とした公募型の研修
- ・ 免許状更新講習
- ・ 免許法認定講習（一種免許状への上進を行う場合など）
- ・ 保育士等キャリアアップ研修（「保育士等キャリアアップ研修の実施について」（雇児保発 0401 第1号 平成29年4月1日付厚生労働省雇用均等・児童家庭局保育課長通知）に基づき実施される研修をいう。）

（※）上記の記載のとおり、各種研修を対象とする予定であるため、都道府県の判断で特定の種類の研修のみの受講を求めることのないよう留意すること。

○ 一方、「中核リーダー」については、将来的に園長・副園長・教頭等として園の管理・経営に携わることも考えられることから、一定時間のマネジメント分野に関する研修（※）の受講を必須とする予定。

（※）カリキュラムマネジメント、組織マネジメント、他機関との連携、リーダーシップ、人材育成・研修、働きやすい環境作りなど、自園の円滑な運営と教育・保育の質を高めるために必要なマネジメント・リーダーシップの能力を身につけるために必要な研修をいう

3. 所要時間数

所要時間については以下のとおりとする予定。

- 「中核リーダー」及び「専門リーダー」については合計60時間以上（「中核リーダー」については、マネジメント分野に関する研修を15時間以上含む）
- 「若手リーダー」については合計15時間以上

4. 研修受講歴の管理・確認

- 研修の受講歴については、「研修ハンドブック」（（公財）全日本私立幼稚園幼児教育研究機構／監修）等により私立幼稚園職員個人が管理することを基本とする予定。
- 処遇改善の要件確認に当たっては、①まず各職員において、研修を修了した際には研修修了の証明を受領して保管（「研修ハンドブック」のスタンプ履歴でも可）し、②各園において、職員の保有する研修履歴を基に、該当職員の受講した研修の実施主体・名称・主要内容・開催年月日（時間数）等を簡潔に記載した様式を作成して市町村に提出し、③市町村において確認監査等の機会に必要な応じて様式の記載内容の根拠を確認するといった流れで行うことを想定。

雇児保発 0401 第 1 号

平成 29 年 4 月 1 日

都道府県
各 指定都市 民生主管部（局）長 殿
中 核 市

厚生労働省雇用均等・児童家庭局保育課長
（ 公 印 省 略 ）

保育士等キャリアアップ研修の実施について

保育士は、専門的知識及び技術をもって、児童の保育及び児童の保護者に対する保育に関する指導を行う専門職であり、その専門性の向上を図るため、児童福祉施設の設備及び運営に関する基準（昭和 23 年厚生省令第 63 号）第 7 条の 2 第 1 項では、「児童福祉施設の職員は、常に自己研鑽に励み、法に定めるそれぞれの施設の目的を達成するために必要な知識及び技能の修得、維持及び向上に努めなければならない」こととされており、同条第 2 項では、「児童福祉施設は、職員に対し、その資質の向上のための研修の機会を確保しなければならない」こととされているところです。

近年、子どもや子育てを取り巻く環境が変化し、保育所に求められる役割も多様化・複雑化する中で、保育士には、より高度な専門性が求められるようになっており、日々の保育士としての業務に加え、各種の研修機会の充実によって、その専門性を向上させていくことが重要となっています。

現在、保育現場においては、園長、主任保育士の下で、初任後から中堅までの職員が、多様な課題への対応や若手の指導等を行うリーダー的な役割を与えられて職務にあたっており、こうした職務内容に応じた専門性の向上を図るための研修機会の充実が特に重要な課題となっています。

今般、公示を行った保育所保育指針（平成 29 年厚生労働省告示第 117 号）では、「保育所においては、当該保育所における保育の課題や各職員のキャリアパス等も見据えて、初任者から管理職員までの職位や職務内容等を踏まえた体系的な研修計画を作成しなければならない」ことが盛り込まれたところです。

また、子ども・子育て支援法（平成 24 年法律第 65 号）に基づく特定教育・保育等に要する費用の額の算定において、平成 29 年度より、技能・経験を積んだ職員に対する処遇改善のための加算が創設されますが、今後、当該加算の要件に研修の受講が課されることとなっています。（平成 29 年度は研修要件を課さず、平成 30 年度以降

は職員の研修の受講状況等を踏まえ、決定。)

これらを踏まえ、今般、保育現場におけるリーダー的職員等に対する研修内容や研修の実施方法等について、別紙のとおり、「保育士等キャリアアップ研修ガイドライン」を定めましたので、通知します。

なお、本通知は、地方自治法（昭和 22 年法律第 67 号）第 245 条の 4 第 1 項に規定する技術的助言として発出するものであることを申し添えます。

認定こども園に係る処遇改善Ⅱの研修の取扱いについて

1. 実施主体

- ① 都道府県・市区町村
- ② 認定こども園関係団体・幼稚園関係団体
- ③ 大学等（大学、指定教員養成機関、その他免許状更新講習・免許法認定講習開設者等）
- ④ その他都道府県が適当と認める者

（※）園内で実施する研修についても、学識経験者、幼児教育担当指導主事や地方公共団体が委嘱する幼児教育アドバイザーなど、乳幼児期における教育及び保育に関する専門的知識又は技能を有する園外の者の訪問支援を活用して実施する場合など一定の要件の下、認める予定。

2. 研修内容

- 認定こども園職員の研修は、これまでも様々な主体により多種多様な研修が提供されてきた実績があることから、原則としては1. に示した実施主体が実施する研修であって、幼保連携型認定こども園教育・保育要領、幼稚園教育要領及び保育所保育指針を踏まえた教育及び保育の質を高めるための知識・技能の向上を目的としたものを幅広く認める予定であり、都道府県が個別の研修についてあらかじめ認定等を行うことは不要。
 - 1. に示した実施主体が実施する研修が幅広く対象となることから、例えば、下記のような各種研修も対象となる予定（※）。
 - ・ 保育士等キャリアアップ研修（「保育士等キャリアアップ研修の実施について」（雇児保発 0401 第1号平成29年4月1日付厚生労働省雇用均等・児童家庭局保育課長通知）に基づき実施される研修をいう。）
 - ・ 経験年数に着目した研修（例：3年目研修、5年目研修、10年目研修など）
 - ・ 園内での役割に着目した研修（例：主任研修、リーダー保育教諭研修など）
 - ・ 広く一般教員を対象とした公募型の研修
 - ・ 免許状更新講習
 - ・ 免許法認定講習（例：一種免許状への上進を行う場合など）
- （※）上記の記載のとおり、各種研修を対象とする予定であるため、都道府県の判断で特定の種類の研修のみの受講を求めることのないよう留意すること。
- 一方、「副主幹保育教諭」（これに相当する職員を含む。以下同じ。）については、将来的に園長・副園長・教頭等として園の管理・経営に携わることも考えられることから、一定時間のマネジメント分野に関する研修（※）の受講を必須とする予定。
- （※）カリキュラムマネジメント、組織マネジメント、他機関との連携、リーダーシップ、人材育成・研修、働きやすい環境作りなど、自園の円滑な運営と教育・保育の質を高めるために必要なマネジメント・リーダーシップの能力を身につけるために必要な研修をいう。

- 各職員が現在及び将来の職務内容（就く可能性のある場合を含む。）に関連する内容の研修を受講することとなるよう、各園で適切な配慮を行うことが望まれる。

（注） 現在、満3歳未満の園児の保育にのみ従事する職員など、1号認定の園児のみ、あるいは2・3号認定の園児のみ担当する職員についても、人事のローテーションで1号と2・3号の双方を担当する可能性があるため、例えば以下のような対応をとることが望ましい。

- ・ 3号認定の園児の保育を行う施設において「副主幹保育教諭」及び「専門リーダー」になる場合、必要に応じて「乳児保育」の分野の研修を受講すること。

3. 所要時間数

所要時間については以下のとおりとする予定。

- 「副主幹保育教諭」及び「専門リーダー」については合計60時間以上（「副主幹保育教諭」については、マネジメント分野に関する研修を15時間以上含む。）
- 「職務分野別リーダー」及び「若手リーダー」については合計15時間以上

4. 研修受講歴の管理

- 研修の受講歴については、認定こども園職員個人が管理することを基本とする予定。

公益財団法人全日本私立幼稚園幼児教育研究機構

平成 30 年 12 月